

あるある研修 「みんなの前ではドキドキ」

■ 主な内容

- ・満3歳で入園してきたHちゃん
- ・入園時から人見知りで友達とのかかわりは少ない
- ・困ったことがあると黙ったり、泣き叫んだりする
- ・保育者との信頼関係が築けてきた秋頃
- ・朝の会では恥ずかしくて、返事が出来ない様子
- ・ある朝の会での出来事

■ 幼児と保育者のようす

- ・朝の自由遊びの時間

保育者：Hちゃん、Hちゃんと頑張ってみようと思うことがあるんだけどお話ししてもいいかな。

H 児：首を縦に振る

保育者：朝の会でお返事「はい」ってやってみないかな

H 児：首を縦に振る

保育者：最初は手を挙げるところからやってみよう

H 児：うん

保育者：ちょっとここでやってみない？

保育者：〇〇Hちゃん！

H 児：恥ずかしそうに手を挙げ「はい」と小さな声で

保育者：すごい、すてき、Hちゃんのお返事を聞けるなんて先生うれしい

- ・朝の会

保育者：〇〇Hちゃん！

H 児：はい

周りの子ども達：Hちゃんすごい。がんばったね。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ Hちゃんにこのタイミングでやってみようと言ったのはなぜだと思いますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ やりたくないという子に対してあなたはどのように接するよう心がけていますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「みんなの前ではドキドキ」

■ この園での取組

- 誰にでも得意、不得意はあることを理解する。
- 入園時からの本児の様子を職員全体に周知し、出来るだけ多くの職員に声を掛けてもらうようにしていた。
- 普段の朝の会では、H児の了承の上でクラスの是認で助け合いの気持ちをもって、H児の番で返事をしていた。
- 長期的目線で今後、H児にどうなってほしいのかを計画立てて、その後のスモールステップを検討する。
- 頑張るときとそうでない時を本児がわかりやすいように保育者は接していくこと

■ ワンポイント

- 子どもに無理がないように出来ないことを「できる」にかえていくための保育者の関わり方を考える。
- 家庭と幼児教育施設の様子を保護者と共有して、保育に生かしていく
- クラスの友達とも仲良くなっていけるように援助する

あるある研修 「Rちゃんとお母さん」

■ 主な内容

- ・ 5月、5歳児クラスにRちゃんが入所する
- ・ 幼稚園や保育所との関わりは少なく、他の幼児との関わりが幼い。表情や空気感を察することが出来ず、執拗に遊びに誘おうとするため、他の幼児の困惑する様子が見える。
- ・ 人なつこい反面、保育者との距離感がはかれない。
- ・ 経験不足が目立つ。筆圧の弱さ、自由画の表現が苦手
- ・ 母は育児疲れの様子。子どもへの関心が薄い
- ・ 6月から5歳児に大縄跳びを取り入れる。

■ 幼児と保育者のようす

・ 大縄跳びの前に個人の縄跳びの時間を取り入れる。皆は活発に練習している。

R 児：先生、これはどうやってするの。できない。

保育者：縄跳びは、こうやってまわして、ぴよんだよ

（手をとって実際に一緒に練習をする。運動は得意そう）

R 児：先生見てて

保育者：見てるよ。上手ね。跳ぶタイミングがよくなってるね。

（大縄の練習が始まる。R児も成功することが増えた）

・ 降園時、R児の保護者に伝える。

保育者：大縄跳びで、クラスで一番多く跳ぶことができ喜んでいました。毎回、縄跳び練習では、汗びっしょりになって頑張っていましたから。

保護者：そうなの。頑張っているのね。保育所も先生も大好きっていったものね

※出来るようになったことを認めてもらい、自信がついてくると、自由画の表現が豊かになった。自分の思いや感情を表出することが増えてきた。

ワークシート

■ 協議してみましょう

- 年長クラスへの途中入所。家庭が子どもに関心をもってもらうために、保育所としてどのような働きかけの方法があるか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

- 事例のような幼児の得意なことを見つけ出す方法を様々な視点から考えましょう。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「Rちゃんとお母さん」

■ この園での取組

- 3歳以上児クラスは、送迎時に1日の活動の様子を玄関先のボードでお知らせしている。個別で口頭によるお知らせも。
- R児からの発信にはきちんと向き合い、他者を信頼して受け入れてもらえるような経験を積み重ねる。(クラス担任だけでなく、他の保育者との関わりも大切にする)
- R児の家庭の様子については、地域の関係機関と情報を共有していく。小さな変化も見逃さず、共有する意識を職員間でもつことが大切。

■ ワンポイント

- 保護者支援の在り方を考える。→保護者の子育て、育児方法を認めた上での関わり方
- 気になる家庭。家庭からの情報が少ないときにどのように子どもの特性を捉えていくか

あるある研修 「仲間の力」

■ 主な内容

- ・ 1学期6月の年長児クラス。運動会に向けてチーム対抗リレーの練習をしていた。
- ・ 走ることが大好きなE児は自由遊びでも友達を誘ってリレーごっこを楽しんでいた。
- ・ ある日のリレー練習の時、E児がバトンをもらって走るとき、初めて友達に抜かされて、途中で走るのをやめてしまった。

■ 幼児と保育者のようす

(運動会に向けて、リレーの練習をしたときのこと)

保育者：今日はリレーの練習をするよ。どのチームが勝つか

幼児達：まけないぞ！

(リレースタート。順番に走り、E児の出番。走っている途中で友達に抜かされ走るのをやめてしまいました。リレーを中断してみんなの前でE児の気持ちを聞きました。)

保育者：Eくんどうしたの

E 児：つまらない(表情が悔しそう)

保育者：Eくんの悔しい気持ちはわかるよ。抜かされたのは悔しかったよね

(それを聞いていたクラスの幼児からこんな声が出る)

A 児：抜かされたら、また抜き返そう

B 児：やめちゃったら、僕たちのチームは勝てないよ

C 児：Eくんは足が速いから、Eくんの力が必要

(黙っていたE児が小さな声でいった)

E 児：もう一回やりたい。

(2回目の練習もEくんのチームは負けてしまいました。でも)

幼児達：Eくん頑張れ、負けるな

(友達の応援で、Eくんは最後まで諦めずに走りきることができました。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 1回目と2回目のリレーで、Eくんの気持ちにどのような変化があったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 子ども達が主体的に練習に取り組めるよう、どんな工夫をしていますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「仲間の力」

■ この園での取組

- 幼稚園最後の運動会に向けて、クラスで色々話し合いを設けながら練習に取り組んできた。
- Eくんは体を動かすことが大好き。しかし、負けることが嫌で年中の時も勝負事の際に負けると途中でやめてしまったり、気持ちが崩れてしまったりすることがあった。その都度、本児の気持ちを受け止め、競争を意識せずに楽しめるように関わってきた。
- 年長児のチーム対抗リレー。練習から子ども達同士で話し合い、走る順番を決めたり、勝てる作戦を考えたりするなどしてきた。
- Eくんも話し合いの中で意見を言い合うことでチームとしての仲間意識が芽生え、自由遊びでもリレーごっこを楽しむようになった。
- 話し合いの時間を設けることで、子ども達自身がどうしたらよいかを考え、行動に移すことが出来るようになった。また、子ども達がやりたいと考えたことをなるべく実現するように環境づくりを心がけている。

■ ワンポイント

- 子ども達がやってみたいと考えたことをどうやったら実現できるか考えていく。
- 大きな行事にクラスが一体となって気持ちが盛り上がっていくようにどのような工夫ができるか。

あるある研修 「ドキドキ…」

■ 主な内容

- ・ 入園当初、母と離れることに不安で泣きながら登園する〇児
- ・ 慣れてくるとはきはきと発言する姿が見られる。
- ・ 初めての集団遊びでは、戸惑ってしまい泣いていた〇児
- ・ 当番の仕事を楽しみにして、みんなの前で堂々と進める
- ・ 行事の時、保護者が見ている前で泣き出して、固まってしまい、いつもの元気が発揮できなくなってしまった。

■ 幼児と保育者のようす

(1学期)

保育者：明日は、みんなのお父さん、お母さんが見に来てくれます。
楽しみな人！

幼児達：はい

保育者：かっこいい姿を見せてあげられるかな

(当日の当番が〇児だったので)

保育者：〇ちゃんお当番だね。頑張ってね

(参観日、当日、泣きながら固まってしまった〇ちゃん)

幼児達：〇ちゃん、頑張って、大丈夫だよ

〇児：友達の応援で余計に泣いてしまう〇ちゃん

(3学期)

保育者：明日のお当番〇ちゃんだよ。頑張ってね

〇児：ニコニコと照れ笑い

(当日、朝から不安そうにしていた〇児でしたが、泣きそうになりながらも堪えて当番の仕事を終えました。成長を見届けた母は感動していました)

※1年をかけて、ゆっくりと気持ちの変化、成長を見ることが出来ました。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 泣いてしまう〇児に、どのような声掛けや対応をしていきますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 1年をかけて、〇児の気持ちがどのように変化していったか想像してみましょう。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「ドキドキ…」

■ この園での取組

- 初めての集団生活や母と離れる不安を取り除けるように寄り添い、安心して生活できるように配慮している。
- 子どもの興味や関心があることを見付け、環境を整えることで好きなことを楽しめるように工夫している。
- 好きなことはもちろん、頑張っている姿勢や上手に出来たことは、大いに褒めて自信につなげられるよう心がけている。
- 初めてのことに戸惑いが見られる場合は、気持ちを落ち着かせるよう声を掛け、理由を聞いて無理強いせずに少しずつでも参加できるよう促している。やり方を工夫することで戸惑うことなく参加しやすくなった。
- 一人一人に合った声掛けや対応をその都度変えながら、そのときの気持ちに寄り添うように心がける。
- 行事の度に心配な様子の保護者に対して、普段の様子をこまめに伝えることを心がけ、保護者に安心してもらえるよう伝えることを大切にしている。

■ ワンポイント

- 初めてのことに戸惑う経験は大人でもあること。どのように言葉がけすると、子どもの不安を軽減したり、やる気を引き出したりすることができるか考えることが大切です。
- 保護者がそばにいと不安定になる子どもの気持ちを考え、どのようなことを思っているのかを想像する。
- 1年を通して成長を感じる事が出来たが、どのように気持ちに変化していったかを考え、話し合ってもらいたい。

あるある研修 「ピカピカになった！」

■ 主な内容

- ・進級して半年が過ぎた 10 月
- ・S 児は行動がマイペースで他児より準備が遅い
- ・「急いでね」「頑張れ」と声を掛けるが、動作は変わらない
- ・昼食時間は時間がかかり、決められた昼食時間を過ぎると途中であっても、残りを給食室に下げている。
- ・保護者からは、家でもゆっくりであること、園の昼食は多いかもしれないと状況を聞いている。
- ・昼食を 45 分で食べ終えた子へ「頑張り表」を作成すると

■ 幼児と保育者のようす

(昼食時間に、好きな物を食べている S 児。徐々に食べるペースが遅くなる。)

保育者：S ちゃん、あと少しでおかずが食べ終わるよ。

S 児：うん

(声を掛けると食べ始めるが、周りに興味がいき手が止まる)

保育者：S ちゃん、手がお膝になっているよ

保育者：早く食べ終えた子にはシールを貼るので並んでください

(S 児もシールに興味をもっているようです。)

S 児：シールかわいくていいな

(後日…)

S 児：先生、もう食べられたよ。ピカピカになったよ。シール貼れるかな。

(保育者に皿を見せて満面の笑みです。シールを貼ることが出来ると伝えたと、片付けも早く終わり、喜んで貼っていました)

S 児：ほら、シール貼ってもらったよ

保育者：今日は、とっても頑張って食べたものね。また、明日も頑張ろうね。

(保護者にも早く食べ終えたことを伝え、保護者の側で得意げな S ちゃんでした)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 自園の食事の好き嫌いがあるお子さんにはどのような関わりや声掛けをしていますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 行動がワンテンポ遅れてしまう時には、どのような配慮が出来ると考えられますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「ピカピカになった！」

■ この園での取組

- 給食の食べ進み時間は一人一人個人差があるので、子ども達が年齢によって食べ終わる時間の目標を設定しています。(3歳児 45分、4・5歳児 30分)
- 45分間で食べ終わることが出来た子には頑張り表でシールを貼っています。クラスの半分以上が早く食べることが出来た日は、ホールや園庭で遊んでいます。早く食べ終わると楽しい遊びや新しい遊びが出来ると伝えています。
- S児は周りをよく観察していて興味関心が高いことから、S児に声掛けを多くする事よりも、周囲の子に声を掛けると「頑張ろう」とやる気につながり、食べ終わる事が出来ました。自分で気付く声掛けを心がけています。
- 家での食事内容は様々です。保護者と一緒に連携を取ることが出来るように連絡帳やお迎え時に日々の様子を伝えています。家庭でも声を掛けていただくようお願いすることもあります。
- 個々に成長のタイミングがあるので、保育者は焦らずに対応して、日々、繰り返していくようにしています。

■ ワンポイント

- 園での食生活のみではなく、保護者と家庭での状況はどうかを伺い、どのようにしたら食べられるかを聞いて保護者との信頼関係を築きながら、園で工夫できることを考えます。
- クラス内で問題を抱え込まず、職員会議などで職員全体に共有することも大切です。
- 他クラスでも似た事例がある場合の対応を聞いて実践できそうなことから取り組んでみましょう。

あるある研修 「環境の変化によって」

■ 主な内容

- ・ 新年度が始まった4月
- ・ 2歳児のクラスのJ児は新しい保育室、新しい担当保育者に不安な表情。安心タオルを常に持っています。
- ・ 登園して保育室に入ることが難しく、玄関や廊下でじっと周りの様子を見ています。
- ・ 保育者が「おもちゃで遊ぼう」「今日のおやつは何か」と誘いますが、警戒して動きません。ついには泣き出しました。

■ 幼児と保育者のようす

保育者：Jくんおはよう

J児：母を見送り、廊下の隅へ

保育者：お友達と一緒に遊ぼう！

J児：首を横に振り、その場から動きません。

先生や一だと泣き続けます。

保育者：抱っこする？

(両手を伸ばして保育者に抱っこされるJ児。抱っこのまま保育室へ入り、落ち着くまで背中をさすっていると次第に泣き止みました。保育者がつくるブロックに興味をもって、保育者の膝から降りて、遊び始めました)

(保育室から園庭へ、ホールから保育室へなど、活動の場が変わるときに泣いたり、その場から動かなかったりという姿がありました。)

保育者：先生のお手伝いしてもらってもいいかな。終わったら部屋に行こうね。

(J児が納得できるような声掛けをしたり、楽しく移動できるような誘いかけをしたりすることで環境が変わる場面での気持ちの入れ替えが出来るようになってきました。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ その場から動かず、声を掛けると泣いてしまう幼児にどんなアプローチをしていきますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ J児の姿を見ている保護者にどのように関わっていきますか

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「環境の変化によって」

■ この園での取組

- 前年度の担任からJ児の情緒面の心配を聞いていたため、無理せずクラスに馴染んでいけるよう関わっていった。
- J児の不安な気持ちを受け止めながら、気持ちを紛らわせたり、見通しがもてる関わりをしたりすることで信頼関係をつくっていった。
- 保護者には、新しい環境になってJ児に不安な気持ちがあること、見送った後、時間をかけながら集団に入ることが出来ていることを伝えて安心できるようにしてきた。
- J児の興味があるおもちゃを準備し、同じ保育者が一日関わるようにするなど、安心して過ごせる環境をつくった。

■ ワンポイント

- 前年度のJ児の成長を踏まえ、J児のペースで環境に慣れていけるように援助、配慮した。
- 担任だけでなく、他クラスの保育者とも情報共有してJ児と関わっていった。
- 保護者には現状の心配なことだけでなく、出来るようになったこと、友達との関わりなど楽しく園生活を送っていることを伝えていた。

あるある研修 「もう、食べ終わったよ！」

■ 主な内容

- ・ 進級して、お弁当が始まり 1 か月後の 5 月
- ・ 4 歳の M 児はお弁当を食べ進めるが、クラスで最後に食べ終わる状況。もともと、食が細く、好き嫌いや食べず嫌いも多いため、弁当の中身は M 児が食べられるもの中心であった。
- ・ 年中児となって箸の扱いを練習中
- ・ 家庭でも練習用箸を活用している
- ・ ご飯が苦手なことと、箸でうまくつかめないことで手が止まる
- ・ どうしたら、M 児が意欲的に食べてくれるだろうか

■ 幼児と保育者のようす

(もともとマイペースで保育者の声掛けにも焦ることなく行動する M 児)

(自分の意見をあまり言わず、もじもじしていることが多い)

幼児達：いただきます。マスクを外して手指消毒して食べ始める

M 児：いつものようにゆっくりと準備。弁当のふたを開けるが食べ始めない。

保育者：M くんどうしたの。食べていいんだよ

M 児：無言で保育者を見る。

保育者：おかずから食べてみたら？M くんのお好きなミートボールが入ってるね

M 児：練習箸を使って食べるが、ご飯になると手が止まる。

保育者：箸じゃなくてスプーンで食べてみる？スプーンを手渡してみると

M 児：自ら食べ進めるようになった。

保育者：すごいね、あと少しだね。

M 児：もう、全部食べたよ

(その後の M 児は、ご飯を練習箸で食べようとするが増えてきた。最後にご飯粒を集めるときにスプーンを使うなど、自分で考えて食べている。今までよりも早く食べ終えるようになり喜んでいる。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 食べ進めるのが遅い理由として、どのような事が考えられる
でしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 食べ進めるのが遅い子どもにどのような声掛けや工夫をして
いますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「もう食べ終わったよ！」

■ この園での取組

- 当初はM児のペースに合わせて様子を見ていたが、全て食べ終わるまでに時間がかかっていたことから、保護者と相談して、ご飯の量を減らして様子を見ることにした。
- ご飯の量を減らしても時間がかかっていたため時間を決め、だいたい、食べ初めから1時間としていた。残してしまうときは持ち帰っていた。(保護者にはその旨を伝えている)
- 時間を決めたことで、徐々に時間内で食べ終わるようになった。みんなと遊ぶ時間も確保され、自信につながった。
- スプーンやフォークが使いやすいことは分かるが、最初は練習箸で食べることを約束し、集めづらい、掴みづらいときには使ってもよいことにしている。
- 声掛けによって食べ進めることの意欲が途切れないようにしている。言い過ぎないように注意をしている。
- 手が止まっても保育者が食べさせることはしない。早く食べ終えたときには共感して褒めるようにしている。先に食べ終えた子の行動がM児の食べ進めに影響しないように配慮している。

■ ワンポイント

- 食べられない原因を考察し、子どもに対応した声掛けを心がける。
- 意欲的、自発的に食べて、満足感や充実感を味わえるように工夫する。
- 量の調節や詰め方の工夫など、保護者との連携の必要性を考える

あるある研修 「言うこと聞いてほしいのに」

■ 主な内容

- ・思い通りにならないと、ちょっとしたことでも大きな声で泣き続ける5歳児のAちゃん
- ・お気に入りの絵本を一緒に見ようと友達に声を掛けるが、断られ大泣きする。保育者が対応するも、自分の言うことを聞いてくれないと泣くばかり。
- ・一度気持ちが崩れると、ちょっとしたことで怒って大泣きして長く泣いている。
- ・機嫌が悪くなると担任とずっと手をつないでいたり、隣にいないとまた大泣きしてしまう。

■ 幼児と保育者のようす

A 児：Bちゃんこの本、一緒に見よう！

B 児：今、この本を見てるから、見れないよ

A 児：なんで、一緒に見ようよ。一緒に見たいのに！

B 児：…。

A 児：大泣き

保育者：どうしたの？

A 児：Bちゃんが私の言うことを聞いてくれない。

保育者：Bちゃんは、この本を見ているところだから、見終わったら一緒に見てくれるか聞いてみたら

A 児：大泣き

B 児：この本を見終わったら、一緒に見よう。待っててね。

A 児：泣き続ける。保育者にくっついている。

B 児：読み終わったから一緒に見よう。

A 児：一緒に見られることがわかると、ケロッと泣き止む

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ A児はどうして大泣きしてしまうのか。どんなときに泣きやすいのだろうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 保護者に集団の中での子どもの様子を伝えるとき、どんなことを大切にしているか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「言うこと聞いてほしいのに」

■ この園での取組

- A児が大泣きしてしまったら、その都度担任が丁寧に関わり、本児の思いを受け止めている。しかし、周りの子がA児がすぐ怒って泣くと困っている様子があり、それについて解決を目指している。
- A児はお気に入りのぬいぐるみを抱くことで安心して気持ちが落ち着くこともある。必要なときはぬいぐるみを使う。
- 担任だけで対応が難しいときは、他の職員がサポートする。
- A児の育ちの環境、背景を理解しておく。
- 大泣き、長泣きにならないで頑張れる方法を試している（シール、絵カード、環境設定）
- 園での姿は保護者に伝えており、家でも小さいときからよく泣く子であったと情報を共有している。集団の中での困り感や就学後の心配な点については保護者と共有できていない。

■ ワンポイント

- どうすれば、A児が長泣きせずに過ごせるか、関わり方、環境設定など、どのようなことが出来るか考える
- 困り感のある園児の幼児教育施設での姿を保護者に分かりやすく伝えるときの方法としてどのようなことが考えられるか。